

# ニュージーランド英語におけるマオリ語 (VII)

横瀬 弘幸\*

## Aspects of the Maori Language in New Zealand English (VII)

YOKOSE Hiroyuki \*

### Abstract

In daily conversation in New Zealand, the Maori language comprise only five percent. In fact, however they use speak lots of Maori Language, words and phrases, expressions, everywhere. This paper examines the subordinate constituents of complex sentences, the explanatory predicate to stative sentences, reflexive – intensive pronouns and possessive pronouns and constituents: if and when etc, the pronunciation of the sounds, vowels, consonants, word stress, phrases stress. To the last I'd like to consider Japanese and Maori language.

### 抄 録

ニュージーランドにおけるマオリ語の存在は確実に生活の随所にみられる。現在も小中校や高等学校の授業科目に取り入れられている。言葉に限らず、歴史にも触れ、マオリに対する姿勢はゆきとどいている。マオリ語の使用範囲は5パーセントといわれているが、私の調査では10パーセント以上である。引き続きマオリ語が生活の中に受け入れられ、借用されているか文法的な見地から検証する。最後に日本語の祖語といわれているマオリ語と日本語についても検討する。

キーワード：複文の二次的構成要素、相対的構成要素、発音（母音、子音）、マオリ語および日本語との関係

### 1. 従属する複文の構成要素

これまで考えられていた文のほとんどは単文で、主語が一つ述語が一つである。一つ以上の述語を含む文は複文である。文構成要素は複文の構成を成し、述語を含む。複文は二つ以上の構成を含む、其の一つは他の構成が

主な構成と従属するといわれている構成要素である。「子供が落ちる」「子供が木に登る」を考えてみる。The boy fell down and the boy climbed the tree. これらは単文である。The boy may fall down if he climbs the tree. は複文である。なぜなら、二つ述語を含んでいるからである。

\* 経営情報学部経営情報学科、Tsukuba Gakuin University

The boy may fall down. は主に文構成要素であり、if he climbs the tree は従属した文構成要素である。

A. 条件付の文構成が if を示す me, he による場合

Me he mea naau te tamaiti, kua moohio koe ki te roanga o toona ingoa.

その子供たちがあなた方でしたら、フルネームで知っているでしょう。

Me i haere mai koe inanahi, kua tuutaki taaua.

あなたが昨日来ていたら、私たちは会えたでしょう。

Me e haere ana koutou, me hari a Pani.  
行くのなら、Pani を連れて行って。

Me kaahore koutou e haere ana, me tuku a Pani kia haere.

行かないなら、Pani を行かせて。

Me i kore koe I hoki atu inanahi, kua tuutaki taaua.

貴方が昨日帰っていなかったら、私たちは会えていただろう。

Me ka mahi taatou, ka ora; me ka kore taatou e mahi, ka mate.

万一私たちが行っていたら、繁栄するでしょう。しなかったら、つぶれるでしょう。

Me kua oti oo mahi, me haere ki te piki-tia.

仕事が終わったら、映画を見に行きなさい。

Me kia tere te koowhaki i te kanga i mua o te ua, ka haere au.

雨のまえに、コーンを急いで集める必要がなければ、行きます。

Me kaahore kia tere te koowhaki I te kanga, ka haere au ki te tangihanga.

もしコーンを集める必要がなければ、tangi のところに行きます。

北オークランドでは、me he は me he を短縮する。東海岸では me, he の通常の短縮は me mea である。

B. if の意味を成し、ki te による条件付の構成要素

動詞が状態をあらわす ki te は未来を含む不確かであるが結果として、文構成要素を使う。例えば、

Ki te mutu te ua, e noho ana taatou.

雨がやんだら、私はいます。

Ki te kore e whiti te raa, e noho ana maatou.

太陽がでなければ、私たちはいます。

Ka mea a Hinemoa, ki te tonoa atu he karere ki a Tuutaanekai e kore pea ia e pai mai ki ahau.

Hinemoa はもし私がメッセージを Tuutaanekai に送れば多分彼は自分を嫌うだろうと考えた。

Ka mea atu a Horowhenua ki oona tu-aakana. Ki te purutia atu to taatou matua, Hohoro mai, kia tiikina atu.

Horowhenua はもし父が連れてこられるように急に戻せれるのかどうか年上の兄に言った。

C. 能動的状態を表す受動的関係の文

名詞相当語句は動詞の構成により決まる。動詞句の従属関係は *nei, na, ra, ai* などにより示される。*Ai* は過去及び未来時制と相関関係の名詞が副詞節の主語でないときのみ用いられる。

*E titiro ana te tangata ki te wahine e tuu mai ra.*

その男はそこに立っている女性を見つめていた。

*He taarina te poaka i pupuhi ai taku matua.*

父が撃った豚は猪だった。

*E mohio ana au ki teenei tangata e haere mai nei.*

こちらにやってくるその男を知っています。

*Kei whea te ngahere, i puuhia ai teenei poaka?*

ほらそこだよ！正に山頂に立っているのです。

*Ko wai te tangata, e poka nei te poaka?*

豚を肉にしている男はだれですか？

*Ko ia te matua o nga tamariki e maataki-taki mai nei.*

彼は子供たちを見守っている父親です。

D. 相対的な構成

全て人々に *maana* と *naana* を使う。強調された文構成とその数は従属した関係する文構成として用いられるかもしれない。すでに、完全な文章として展開している。

*Ko wai te taurekareka, naana nei i tapahi nga waea o te taiapa?*

そのフェンスを切った悪いヤツは誰だ？

*Kei hea te puuru, naana nei i whai a Tamahae?*

*Tamahae* を追ったオス牛はどこにいますか？

*Kua haere kee nga kaimahi, naana nei i mahi te hei?*

はした金で働いた労働者はすでに亡くなっていた。

*I te ata, ka oho nga tamariki, naana nei i tohatoha nga hei.*

朝干草を広げた子供たちは立ち上がった。

*Ko koe te tohunga, maana e hanga te whare.*

貴方は家を建てるほど腕がいい。

*Ko wai maa nga taangata, maana e too te waka ki te wai?*

水のところにカヌーを引いていくその男たちはだれですか？

E. 所有格を持ち、分離的に用いられる関係構成要素

*Kei konei tooku hoa, taatai i paatai mai na.*

こちらはあなたが尋ねた私の友人です。

*Ka mea atu te matua ki tana tamaahine, Ko wai taau e pai o nga rangatira Nei? Maau e whiriwhiri taau e paid ai! Whakautua ana e te tamaahine, Me waiho i taau e pai ai.*

父はどのチーフが好きか娘にたずねた。  
好きな人を選びなさい。娘は父が好きな  
人になりますと言った。

## 2. 文章の状態を表す釈明の述部

kua pau te paraaoa のような動詞が状態を表している。意味としては「パンが全て無くなっている」kua pau te paraaoa i te kurii も同じように、パンが全て犬によって無くなっていることは単数の限定的冠詞により前に位置づけられている付加的なものにより詳しく述べられている。

文章の中で、登場者が最後の例文のように状態を表すコメントが示されていないと、kua pau te paraaoa te kai e te kurii はパンは犬によって全て無くなった様に偽りの述語の動作により表されるかもしれない。

Kua mau koe.

貴方はすばやく捕まる。

Kua mau koe te here.

貴方は跳ね上がってすばやく捕まる。

Kua mau koe i a au te here.

貴方は跳ね上がって私に捕まる。

Kua mau koe te here e au.

貴方は私に跳ね上がってすばやく捕まる。

## 3. 再帰強意代名詞と所有格

いかなる名詞や所有格、そして、このもの全て再帰か否か anoo や ake をおくことにより強調するが、再帰でないものは下記のように tonu によって示される。

Kai kii atu a Apakura, Na wai koe? Ka kii

mai a Whakatau, Naau anoo ra ahau.

Apakura は誰の子供ですか?と言った。

Whakatau は貴方の子供よと言った。

Ka kii a Whakatau, Me au koia te aahua?

Ka mea atu taua tangata nei, Aae me koe na anoo te aahua. Ko koe tonu pea.

従兄弟と結婚し、喧嘩したら自分自身で喧嘩するみたいだ。

Naau anoe i kawaemai i a koe?

自発的にここにきたの?

E kore e rite ki tana ake kai, tino kai, tino maakona?

それはおいしく、満足のいく彼の食べ物ではないようだ。

## 4. If, when の条件付文

Me i tahuri taua iwi ki te whawhai ki a Tama maa kua mate noa iho.

もしその種族がTamaや他の種族と喧嘩するようになったら、彼らは完璧に負けていただろう。

Mei i noho anoo a Ngaatoro maa i Make tuu, mei i kaua te haere ki Moehau, kiihai Iwera a Te Arawa.

もしNgaatoroと人々がMaketuuに移住し、Moehauに旅が行われていなかったら、Arawaは燃やされていなかっただろう。

Me i haere mai koe inanahi kua tuutaki taaua.

もし貴方が昨日来ていたら、私たちは会えたのに。

Me e haere ana koutou ki Ahuriri me hari

a Pani.

貴方が Napier に行くなら、Pani をつれていってね。

Me kua oti oo mahi me haere ki te pikitia.

仕事が終わったら、映画に行ってください。

Me kua tatuu te take me haere nga mahi.

その件が決まったら、仕事にとりかかりなさい。

Ki te, ki te mea と me he mea meaning は if の意味で使われる。が、常に不確実性が含まれる。me he mea は早い口調で短縮されるので、分かりにくい。

Me he mea kua hinga te raakau, kua kati te huarahi.

もし木が倒れたら、道路は通行止めにされていたろう。

Ki te kore e whakaatu mai, e kore ahau e maatau.

説明されなければ、私は分かりません。

Me he mea kaahore ahau e noho ana i konei, kaahore he tangata hei hoa moou.

もし私がここに住んでいなかったら、誰一人貴方の友達にならなかったろう。

Ki te kata koutou i a au i te mea kaatahi anno au ka tomo atu ki roto, ka mate rawa au, mate rawa atu; engari ki te ngaro rawa au ki roto, puta noa i te waha, ka ora ahau, ka mate a Hine-nui-te-poo.

もし貴方が、私が入ってくる時私を見て笑えば私は直ぐに殺されるでしょうが、仮に私が完璧に入ると、私は生きて、Hine-nui-te-poo は死ぬだろう。

If や when を意味する Ana と ina は二つの自由な形となり、何か起きるかも知れない未来に言及する。未来に於いては同様不確実さを含んでいる。

Ina haere mai koe aapoopoo me keke i taku kaainga.

明日あなたが着いたら、私はここを離れます。

Ina kore e haere mai ka haere au ki te hii.

あなたが来ないなら、釣りにいきます。

E hia, e hia nga punua kararehe e mau ana i te tuna nei, ana heke iho ki te inu.

沢山の若い動物が水のみに降りてきた時ウナギにつかまった。

Kia mahara ki eenei tikanga ana haere ki te moana ki te mahi kai, hii ika raanei.

貴方が魚や食べ物を探しに海に行くときこれらの習慣があることを覚えていなさい。

Kia tuupato taaua, ana hoki mai a te ahiahi.

夕方もどるときおたがいに注意しましょう。

E whiti koe ki raawaahi, me haere tonu atu koe.

あなたは反対側に着いたら真っ直ぐ進みなさい。

Kaatahi au ka whakatika ki te whaikoore-ro e ka tae mai te ope a Mea.

パーティになったら、起きて初めてスピーチをしましょう。

Kei riri mai koia koe ki a au e ka whaakii

atu au ki a koe.

さあ、私が貴方に言っても怒らないでね。

## 5. 発音に関する一般的考察

一般的に言語の音声を正確な発音で書くことを図に示すことは困難である。人の発生する声は示すことは出来る。音声記録もある。しかし、話されているマオリ語の記録は無いが、New Zealand で話されている英語に相当する音声であることが分かりつつある。

母音は5つある。それぞれは短いか長いかのどちらかである。長い母音は一語で同じ場所に置く。短いものは二つある。Let's learn Maori (bruce Biggs) によると全て二重母音として示されている。

manu の a は nut の u のように短く発音する

maanu の aa は Chicago の a のように長く発音する

pipi の i は pit の i のように短く発音する

piipii の ii は peep の ee のように長く発音する

peke の e は peck の e のように短く発音する

peeke の ee は pair の ai のように長く発音する

二重母音と言われる異なった母音がある。マオリ語の二重母音ははっきりと第二音節の性質を保ち、ほとんどが英語とマッチしていない。

英語の hay のように hei は ei の発音である

hae は high のように ae である

hai は sighing のように ai である

kao は how のように ao である

kau は au は house の ou のように au で

ある

kou は low の ow のように ou である

kia は beer のように韻をふみ ia である

pua は sewer のように韻をふみ ua である

それぞれにはつぎのようなルールに従って、ストレスがおかれる。そのきまりは与えられた順に適應されなければならない。まず、ストレスはその語の終わりから四番目におかれ、それ以上は無い。四番目以上ふくまれている語においては四番目を考える。ルールは下記の通りである。

A. 二重母音の一つであれば最初にストレスをおく。例えば、

Maata, papaa, kaapene, mataa, kaumaatua, paakehaa

B. 二重母音が無い場合、最初の母音は語の終わりから四つの母音すなわち最初の母音にストレスをおく。

そのような語はほぼ固有名詞である。例えば、

Kaururia, tamaiti, waiata, Hauturu, tau-ranga

マオリ語を話す人々は、簡単なポーズを取り自分たちの言語も取り入れて話す。そのようなポーズは常に文法的フレーズの終わりにおきる。一つの途切れと他との間は抑揚を示すものと言われる。ゆっくりとしたスピーチを聞くと、抑揚は一つの長いフレーズであり、また早いスピーチに於いてはいくつかのフレーズは一つのイントネーションとして話される。それぞれのイントネーションはフレーズの中で最も突起したものと聞こえる。この抑揚の上がり下がりとは句の強調と呼ばれる。次の例はフレーズにストレスがおかれているのを大文字で表したものである。

Ko te ranga Tira, o teenei Marae  
Ko te maRAE, o teenei Rangatira

## 6. 日本語・マオリ語

日本語に似ていると言われるマオリ語は確かに類似点はある。山本陽二氏の日本語－マオリ語 マオリ語－日本語辞典を引用する。17世紀に初めて出会った白人はマオリ族に要求をつきつけたそうである。一方、マオリは白人の存在を知らないのです、これは化け物だと思いつつ、マオリ語で PAKEHA パケハと言ったそうである。パケハは日本語では「おぼけ」である。また、マオリ語の ANA は洞窟の意味を持ち、ATA は日本語の朝、午前中を意味している。AHI は火、燃焼、TORO は炎の意味で、火がとろとろと燃えるのを見て音にしたものと考えられる。他に IKA は魚を意味し、WAI は水、井戸、KAWAI は川となる。MANA は精神であり、TAKAKI は秋である。いずれも日本語と似ている。TOA は戸、WARU は割る、または悪い意味もある。KAWAU は鵜である。KAHAHI は貝の意味である。MANGU は黒、MAA は白。

古事記に吾をアガ・ワガ仮名振りされている。古代の日本語は然るにマオリ語同様の発音であった。OOKU は僕の意味であるが、NOKU、OKU、WAAKU 私を意味している。古代人は自然の中で音声、視覚を感じたままに表現している。更に日本語に似ているものを挙げてみる。

マオリ語で言う、鳥の鳴き声は聞こえたままに、TITI または TIITII といい、KAPAKAPA はヒラヒラ、HIIHII シュウシュウ、MOIMOI 犬を呼ぶ PUPUHI は吹く、KATA は笑う、HAA は息、PAHU は皮、TARE は垂れる TOPA は飛ぶ等である。さらに、日本語では無いかと疑いを持ちたくなるような言葉がある。

マオリ語では TUKI は打つ、叩く、突く KAPAKAPA は叩く、打つ同じく PAAKIA 叩く、打つ、PATU 叩く、打つ、PATUPATU は叩く、打つ TAA-IA 叩く、打つ以上マオリ語と日本語は同じルーツにあり、似ていることがわかる。日本語ではチチは乳と血の意味があるが TITI が乳・乳首である。

また TITI は鳥の鳴き声としての擬音でもある。擬音を挙げるとたくさんある。マオリ語は RURERURE は揺れる・振る、RIRORIRO はピカピカ、WIRIWIRI は振動、WINIWINI は身震い、WHINWHIN は振る、TARE は垂れる、TOPA は飛ぶ、RIHARIHA はむかつく、RIKARIKA はいらいらの意味である。

最後に日本語に似た単語を特記してみる。

ata: 朝	kai: 食べ物
aroha: 愛する	kapakapa: ヒラヒラ
apopo: 明日	kau: 数
haa: 息	kare-a 可愛い
hihi: ヒーヒー	kata: 笑う
ho: 呼ぶ	kee: 悲劇
hihi: 光線	keri: 掘る
ika: 魚	kokoo: ゴクゴク

ニュージーランドがイギリスの植民地となり、1840年移民がウエリントンに初めて行なわれ、ゴールドラッシュがおき次第に人口が一人をこえていった。1850年にはイギリス人の数はマオリ人を超え、10年後にはついに長期にわたる戦争へと発展した。12年にわたる戦争はマオリ人が根負けしたかたちで終息した。歴史を考えるとマオリ人の心を傷つけたことは確かである。現在のニュージーランドは政治も経済も治安も安定しているので訪れる日本人は年間3万人と言われている。

### 参考文献

Bruce Biggs. Let's learn Maori A guide to the Study of the Maori Language 1998 Auckland Univer-

sity Press

Bento R. The history and development of the Maori language 1999 Wellington Government Printer

William, H.W.A. Dictionary of the Maori Language 1971 Wellington

Ngata, H.W. English Maori Dictionary 1993 Auck-

land and Reed Books

Yoshinari Sawada. An itroduction to New Zealand English オセアニア出版

山本陽二、日本語－マオリ語 マオリ語－日本語  
辞典 国際語学社